

10番 小野恵司議員

議長（大西慶治君） 通告順4番、小野恵司議員の一般質問を行いますので、小野恵司議員は質問席へ移動してください。

それでは、通告順4番、小野恵司議員の発言を許可します。

小野恵司議員。

10番（小野恵司君） お昼のトップバッターということで、午前中とは違って変わって僕がここに立つと、皆さんの顔がホッとされるのはなぜなのか、ちょっと複雑な心境なんですけれども、張り切ってまいりたいと思います。今回、4項目ほど質問させていただきます。

まず第1点目に、町のPRについてということでお伺いします。全国の自治体では、6月の時期、クールビズというのが最近ありまして、クールビズ期間など利用しまして、その産地の例えば特産品である生地を使ったであるとか、染め物を使ったとか、そういうふうな例えば地産のものをアピールするようなシャツなどを、町の職員さんなどが全員で着て、町の物産品などを町内外にアピールしていく。住民の方にも広く知っていただくという意味で、そういう活動をしている自治体も、最近増えてまいりました。

ということで、我が大台町もそういう手段、新たな広報対策として、来年度以降考えていってはどうかということですので、町長の見解をお聞きしたいと思います。

議長（大西慶治君） 尾上町長。

町長（尾上武義君） それでは、町のPRにつきましてお答えをいたします。小野議員が言われますように、愛知県の一色町や西尾市、近年クールビズ期間中に、町の特産品等をTシャツにプリントして、職員が着用するというので、町のPRに力を入れて市町村があることは承知をいたしているところです。

しかしながら、こういったPRは、メディアを意識しながら、職員の意識の高揚や町民へのPR効果を狙ったものと考えられますが、町外へのPR効果や

費用に対する効果など、大台町にとってTシャツなどを活用したPRが有効的かどうか、今後検討してまいりたいと考えているところです。

大台町では現在、特産品や観光など、町をPRする方法として、ホームページや広報誌の町外在住で希望のある方への郵送、また観光協会や産業課が町内外で行われる物産展へ参加したり、イベント参加者にパンフレットを手渡すなど、広く効果的、直接的な手段で町のPRを行っているところでございます。

近年、特に食に関しましては、安全・安心やこだわりの食品が求められていることから、地域の風土で培われ、その地域の素材や技術を生かした特産品が改めて注目されることが、今後予想されます。

しかしながら、特産品が世間で認知されるまでにはなかなか至らず、さらなる情報発信を検討している地域が多数存在しているのが現状でございます。そこで町では観光協会のホームページ上で、今年度からネット上で生産者を紹介することにより、安全・安心さをPRしながら特産品が購入できるネットショップのシステムを新たに構築をしたところでございます。このネットショップでは、鹿肉、猪肉、鮎の甘露煮など、食品を始め木工品やホーム用品なども販売をしております、今後品ぞろえとともに売上が伸びていくものと思っております。

誰でもインターネットが利用できる環境にあれば、どこからでも大台町の特産品を取り寄せることができるため、広く口コミも含め効果が期待できるとともに、大台町への興味や関心にもつながるものと考えております。今後もさらにネット上で購入可能な商品を樹立させていくとともに、ネットショップの存在もPRしていきたいと考えております。

また旧大台町と旧宮川村で親しまれてきました、キャラクターであります、「チャミー」と「宮坊」を新大台町のマスコットキャラクターということで活用しております。近年「ゆるキャラ」ブームということで、全国各地の自治体ではご当地キャラクターが愛くるしさに加えて、着ぐるみによる未完成の感じのいわゆるゆるい動きで、老若男女の目を引き、イベントや各種啓発、特産品

や観光PRなどを行って、町の活性化につながっているところです。

大台町でもチャーミーと宮坊の着ぐるみを現在製作しておりまして、10月には皆様にお披露目できるものと思っておりますが、キャラクターを通して大台町のイメージや元気力を町外へ発信することにより、大台町の活性化にもつなげていきたいと考えているところでございます。

また現在、町では災害の作業服というようなことでございますが、そういったようなものを毎月1回着用しながら、職員が着用して災害に対する意識と、そういったようなものをきちっとしていこうじゃないかというようなことで考えておるところでございます。またそのほかにも今日も中日新聞にも出ておったわけなんです、CO₂の吸収についての記事が、中日新聞の一面に出ておったわけなんです、そういったようなことでも結構全国的に広がって、大台町という名が結構広がっていくものだというふうに思っております、いろいろな幅広く考えながら対応してまいりたいと、こう思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

議長（大西慶治君） 小野恵司議員。

10番（小野恵司君） ホームページなどいろいろしていただいているみたいなんですけれども、ホームページでは全国、全世界の方々から大台町というものを登録すれば検索することができるんですけども、まず初めに大台町というものを、全国に知ってもらわないかんというのが前提になってきますので、掲載して見えるというのはようわかるんですけども、よく全国で話題の東国原宮崎県知事なんかは、自分が元タレントというものも活用して、メディアを使ってということで、全国を飛び回ってもらって、宮崎という部門のその知名度が格段に向上したと。大台町長にも一緒に動きをとというのは、ちょっと難しいかも知れないんですけども、よく商売とかPRということに関して、ありきたりというのもスタンダードというのもわかるんですけども、時には奇抜な行動というんですか、目を引くような行動を、今回の中日新聞のJ-VER制度のことなんかもそうなんですけれども、例えば今日は昼からぐらいですか、

3時ぐらいになったら、また新しい新総裁というものが決まってくるかもわからないんですけども、総理大臣に大台町のお茶を飲んでもらうようにということで、町長みずから行ってやってもらうとか、なかなか夢のような話かも知れませんが、オバマ大統領にお茶を飲んでもらうとか、それぐらいできやんかも知れんけど、それぐらいの発想を持ってもおもしろいんじゃないかなと思うんで、そうなかなか動きとしては難しいかも知れませんが、前も予算審議の時に、町長交際費が大台町は50万円ぐらいだと、僕はもっと町長にもアクティブに町内外にPRもしてもらいたいのので、予算を上げてくださいというお話もさせていただいたんで、もっともっと本当は出ていただいて、町長に大台町におってもらうのが一番本当はいいかも知れませんが、副町長始め各課長も抜群な方ばかりなんで、もう町長わし行ってくるわというぐらいの勢いで、全国各地を飛び回って大台町のPRもしていただいてもいいんじゃないかと思うんですけども、そこら辺のお考えがあるのか、お伺いしたいと思います。

議長（大西慶治君） 町長。

町長（尾上武義君） ありがとうございます。いろいろとホローしていただきまして、本当にありがたいと思っております。新しい総理というふうなことなんですが、これは決して夢なことではないと思っております。以前も国から派遣されて県庁に2年ほどいた職員が、今度は宮内庁に天皇陛下のご用番ということで、週に1回テニスの相手をせないかんのやというような話を聞かせていただきました。そのおりに、全国各地からいろいろ送られてくるわけ、産品が。

それを天皇陛下にも食べていただいております、こういうことなのですが、それならあんた使っておくれないというようなことで、こちらからいろいろなキャラブキなりお茶なり送るでというようなことで、言いながら職員にも言うたんですけども、まだそれできておらんですけれども、そういったようなことがありますので、それは天皇陛下にご用達したというようなことは、ちょ

っと箔がついてきますし、お茶なんかも全国1位になった経歴もあるわけですから、そういうような部分でももっともっと広がっていくものがあるのかと思います。

いろいろなことで対応していきたいと思っているところですが、今申しあげました、お話がございましたTシャツにつきましては、これはちょっとそれこそ内向きのことになりがちかなというふうに思っております、そういうようなことでなしに、今の防災服なんかで、新聞記事の中でも取り上げられてやっていくというふうなケースもあるかと思うんですが、そういうふうにして発信力を高めていくという、そのことが非常に大事でして、小さな行事、活動であっても、記者クラブへ投稿せえよと、企画へ集めてこいというようなことで、しょっちゅう言うわけなんですけれども、そこら辺もやはり自分の仕事で終わってしまっているというケースが多々ございますということで、大きなものにはなっていないということなんです、これ全庁的に一人一人が対応していかなければいかんということでございますので、そこら辺の意識というものをもう少し上げていく必要があるだろうというように思います。

例の町民カーニバルも先だってございました。このことをご案内して、何チームか来ていただくということは、それはそれでいいんですけれども、やはりもう少しそれを拡大していこうと、こういうふうになれば、やはり足も出向いて、説明もしお願いもしてくるといふ、そういうやはり熱意というものが必要になってくるだろうと思います。挨拶でも、今年35で、来年は60つころうというようなことでさせてもらったんですが、そういうふうにしてより徐々に拡大をしていくという、その意識活動というのが大事になってくるんじゃないかなと、そういうことで次第に大台町という名が広まっていくものだというふうに思っております。

ふだんからこれは我々だけでなしに、町民の皆さんも一緒になりながらやっていけば、さらに根強いものになっていくんじゃないかなと、こういう思っております。よろしく申し上げます。

議長（大西慶治君） 小野恵司議員。

10番（小野恵司君） 2点目の質問に移らせていただきます。高速道路無料化実験についてお伺いいたします。6月末から始まった高速道路の無料化社会実験では、紀勢自動車も対象の一つであります。全国の交通量も1.2から1.87倍と増加しまして、我が町の奥伊勢パーキングエリアも、この夏の行楽シーズン、お盆とかの帰省もあわせて大変賑わったと。きのうの話ではないですけれども、前年度比よりはもう拡大に伸びているという状況でもあります。この無料化実験は来年3月まで継続され、この結果を踏まえて全国の統計を見て、これから継続するかどうかというのを審議されるという内容でございます。

そこでお伺いするんですけれども、第1番目にまだ2カ月、2カ月半たった状態ではあるが、町への車の流れの影響を町長は見て、どう感じていらっしゃるのか、まず1点目にお伺いしたいと思います。

そして2点目に各所で、全国所々でこの無料化実験しているところなんですけれども、調査報告が上がってきています。我が町の声も参考対象になっているのか。またその試験終了時にはその一応ここには大台町も通っておりますので、その大台町の声というの、政府なんかにも提言として出せることができるのかお伺いしたいと思います。

議長（大西慶治君） 尾上町長。

町長（尾上武義君） それでは、2問目の高速道路の無料化についてお答えいたします。国は流通コストが安くなることによりまして、生活コストも安くなることや、産地からは消費地へ商品を運びやすくすることによりまして、地域と経済の活性化を図ることを目的としまして、社会実験を通じて影響を確認しながら、平成23年度より段階的に無料化を実施するものでございます。このため高速道路無料化の社会実験が、平成22年6月28日から、平成23年3月31日まで地域経済への効果、渋滞や環境への影響を把握することを目的に実施をされているところでございます。

全国の高速道路37路線で、50区間を対象に、約18%に当たる1626

kmで三重県は津インターチェンジ以南の伊勢自動車、紀勢自動車道、78kmが無料化の対象区間となっております。

1点目の町への車の流れの影響でございますが、大紀町内で実験前の6月20日、日曜時に実施をされました交通量調査では、国道42号の通行台数が6600台、紀勢道が6800台で合計1万3400台ございました。無料化が始まりました最初の日曜日、7月4日の交通量調査では、国道42号の通行台数が4800台、紀勢道が1万2100台ということで、合計1万6900台と、国道42号では1800台減少し、紀勢道では5300台が増加をしておりました。合計では3500台増加をしているところであります。

このことによりまして、奥伊勢パークの6月の売上が、約900万円に對しまして、無料化の7月は約1500万円と大きく伸びている一方で、国道42号線沿のガソリンスタンドを始め、各商店等に悪影響が出ているんじゃないかという危惧をしているところでございます。

無料化によりまして、高速道路を利用される方が多くなりまして、町の活性化、経済の波及効果をもたらすためには、高速道路利用者の皆様を町内へ誘導することが重要であると考えております。そのため町のアンテナショップ的な役割を持っております奥伊勢パークを活用し、優れた地域資源と積極的にPRとともに、大台町の特性を生かした熊野古道や趣味、趣向あるいはアウトドア等の交流型の観光を推進し、町への集客を高めていかなければならないと考えているところでございます。

2点目の高速道路無料化の影響調査につきまして、国土交通省は一つ目には一般国道からは高速道路への転換、これは交通量の調査であります。二つ目は渋滞の変化、走行の速度なりあるいは渋滞回数、あるいは渋滞の長さ、そういったようなものを調査。三つ目には物流車両の利用状況、高速道路の利用回数なり、あるいは到着時間の正確さがいかにどうかといったようなことの調査。四つ目には、観光客数の変化。客数なり旅行の回数がどうなっておるのか。それから五つ目には、他の交通機関の輸送量、鉄道なりフェリー等の輸送量への変

化がどうなのか。そして六つ目にはその他として、交通事故や夜間の騒音等について調査、分析を実施しまして、その検証結果を公表するとしているところでもあります。

現在、公表されております調査結果は、交通量と渋滞状況のみでありまして、その他の調査については調査対象を含め、また公表されておられません。関連施設であります道の駅、あるいは奥伊勢フォレストピア、奥伊勢パーキング等の町内の施設に対し、現在のところ国土交通省からの調査の依頼はきておりませんし、今後も調査の対象となるかどうか分からない状況でございます。

また、無料化の社会実験に対する意見、提言につきまして、国から市町に呼びかけることは考えていないようでございますが、町から提言があれば受け付けていただけるとのことですので、国の影響調査結果を踏まえながら、検討してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いをいたしたいと思っております。

議長（大西慶治君） 小野恵司議員。

10番（小野恵司君） これは9月7日の中日新聞で、高速無料化で明暗という記事が出てまして、三重県内、主な観光地等の客数なんかのデータが出てまして、勝っているところと言え、実験としては7月17日から8月30日まで県内の主な観光施設の12カ所の来客数を発表したということで、長島スパランドであるとか、松阪のベルファームであるとか、津の海岸、あとは鳥羽水族館とか、伊賀上野城とか、熊野古道センター、紀伊長島のまんぼうなどあります。

その中で前年度比で100%を超えているところが、6カ所ありまして、長島の長島リゾート、伊勢神宮、これが県内でトップでございます。その後には県立熊野古道センター、そして紀伊長島のまんぼうと続いています。紀伊長島のまんぼうは前年度比111.5%と、かなり増加しておりまして、まんぼうまで出ていて、うちの大台がちょっと出ていなかったのが、どれぐらいなのかという歯がゆいところなんですけれども、こうやって下のほう、南三重のほうにはかなり車が流れていることはわかったわけなんですけれども、先ほど町長が言わ

れましたように、町内で本当に車の台数が減った、高速が無料になって、そしてガソリンスタンドであったり、飲食業界、そして自動車関係、本当に飛び込み客というのが2割から3割減なんだという話を聞かせてもらいましたが、その高速ができてから、そういう状況でさらに無料化になってから、本当に車が走らないという状況というお声をよく聞きます。

笑い話なんですけれども、きのうたまたま夜子供を連れて、そこのマックスバリューに来た時に、役場の前のバス停で手を挙げておる人がおって、何かいなと思ってヒッチハイクの人がおって、可哀相なんで乗せてあげようかと思っ、家にもう一回帰りまして、見に来たらおったもんで乗せていったら、松阪のほうまで行きたいんだということで、50歳過ぎのおっちゃんやったんですけれども、本当は名古屋まで行くんだということで、尾鷲から道の駅の前まで下ろしてもらったらしいんですけれども、車が全然走ってないもんですから、トラック等も高速乗って走らないもんですから、誰も止まってくれないんだという話で、あんたも止められた場所が悪かったなと言うて、津まで送っていったという話なんですけれども、僕も人がええなと思いながら、送っていったんですけれども、しかしながら、本当に急に交通量が減ったという声は本当に聞きます。

ただ悪いばかりでなく、例えば先ほど話があった車の音も随分減って、夜も寝やすくなったという声も、トラックなんか走らないんで、本当に静かになったという声なんか聞きます。なかなかこの高速道路無料化については、一長一短の部分がありまして、どちらがいい悪いという部分も、いい人もあれば、悪い人もあるということで、難しいかも知れないんですけれども、やはりその町内に住む人というものが、例えば商売している人なんかは死活問題に考えてくるという感じにもなっております。全国でもやっぱりこういう声が多いみたいなんで、町からの提言ができるということであれば、3月の結果までを見て、まだ今、答えをなかなか直ぐ出せというものではありませんけれども、そういう地元の声なんか、町長も真摯に受け止めて、国、県などへ提言をしていた

だきたいと思います。

そして先ほど新聞の来客数、これから秋の行楽シーズン、または正月なんかで、また帰省シーズンになりますけれども、なるべく下のほうに行っているという流れは、よくわかったんで、それをいかにこっちに引き込むか、さっきのPRではないですけれども、何かまたそういう商品の戦略も練って考えていってもらいたいと思うんですけれども、町長いかにお考えですか。

議長（大西慶治君） 尾上町長。

町長（尾上武義君） できるだけ町内の声というものを集約しながら、なるべく対応を図っていききたいというふうに思っております。

またこの大宮大台インターなり、あるいは勢和多気インターでおろして、この大台町へ行きたいという、こういう世界をつくりあげていかなければならないんですね。私、今思っておりますのは自然がいいんだとか、水がきれいなんだとかいうだけでは、これなかなかどこもかも言うんですよ、自然がいいんだ、いろいろなものがきれいなんだとか、人情がいいんだとかいうようなことで、どこを切っても同じような金太郎あめみたいなものになってきますんで、そうではなく、この大台へ行きたいやという、そのものをやはりもう少し構築必要していく必要があるだろうと思います。

そういう中でちょっとヒント的には持っておるんですけれども、実は2、3年前に町のゲートボール協会の皆さんが、年に2回ほど県内の各チームを寄せて、この川添のふれあい会館で大会を開いておりまして、それには約50チームほどやっています。県内、名張からあるいは四日市、熊野、伊勢のほうからというようなことで、考えてみればここは寄りやすいところなんですよ。そういうことで、フツと思いついたのが、1日で帰さずに準々決勝ぐらいから翌日へとおいてくれよということで、お話をしたことがございます。

そうすると、宿泊とかいろいろな消費が発生をしてくるわけですね。そういったようなことも、これは還暦野球の皆さんも考えてもらっておりまして、この春にも10チームほど、奈良県の桜井市からもみえていましたけれども、そ

れも県内当然南北寄ってきていただいております。この秋にもまた大会を予定してもらっておるんですが、そういうようないわゆるアウトドアというんですか、スポーツというんですか、そういったようなこととか、先ほど申し上げました町民カーニバルとか、熊野古道なんかでもいろいろなことを整備することによって、徐々にお客さんがふえてます。そういうようなことで多少なりとも消費というものが上がってくるんじゃないかと。

人にはいろいろな趣味というものがございますので、昨年もそうやったんですけれども、全国のシャクナゲ協会の大会が、このフォレストピアで開かれました。私も挨拶に来いということで行ったんですが、106名の方がみえたんですね。宮崎県、大分県、富山県とか埼玉県とか、そんなところから見えておるんです。シャクナゲぐらいのことで、こんな遠いところから来るんかいなって、やっぱり趣味なんですね。そういった趣味には暇もお金もかけるというようなことになってきますので、こういったような人の趣味をくすぐるようなものを、やはり構築していかないかんとすることを思っております。

それには絵はがきをやりたいんだとか、あるいは山を歩きたいんだとか、川で遊びたいんだとか、釣をしたいんだとか、ボートもしたいんだとか、あるいは俳句も詠みたいんだとか、写真を撮りたい、いろいろなことを人は、花を見たいとか、いろいろな趣味があるわけですね。それに応えられるような受け皿、そういったようなものを作り上げていく、そのことによって大台町のどこそこで行っている、あそこでもこんなことやっているという、しょっちゅう人が入れ代わり、立ち代わりやってくる部分があるのやないかと、こう思っております。それは町が先へ立ってしておいてもあかんで、ずっと長く続けていくためには、やはり地域の皆様のご協力もいただいて、主体となっただきながら、そういった点を展開できるように、そういったようなことができたらし、ということはずっと思いながら来ております。

そういったようなことを一つの戦略としながら、観光協会にそのことは冒頭申し上げたことがあったわけなんです、そういう思いを持ちながら、これが

らも対応してまいりたいということをおもっておりますので、一つよろしくお願
いいたしたいと思ひます。

議長（大西慶治君） 小野恵司議員。

10番（小野恵司君） 3点目の質問に移ります。

町・地域コミュニティー、ネットワークについてということで、お伺ひいた
します。先ほどさっきの答弁の続きじゃないんですけれども、町長が言われた
こともこういうことに絡んで、コミュニティーのことに絡んでくるのかなとい
うことで、そこら辺も含めてまた答弁願えたらと思うんですけれども、今、全
国どこでも地域コミュニティーというものの必要性というのを重視している自
治体が大変多いです。

そしてその地域と行政との協働で成果も上げ、またコスト削減につながって
いる地域も多々あります。我が町もこれから先、どのような形が望ましいのか、
今までのコミュニティーじゃなくて、これからは新しい地域コミュニティーと
いうのを考えていく必要があると思ひます。

しかしながら、そのコミュニティーの分野は、多種多様にわたっています。
大変範囲で言うたら広いんです。これらのコミュニティーが自治会、各種団体、
グループ、NPOのあり方、またこれからの関わり方、支援の仕方なども考え
ていく必要はあると思ひます。

町長にお伺ひするのは、まず1点目にこれからこの町長は、このコミュニテ
ィーの考え方、必要性などをどう思っらっしゃるのか、お伺ひいたしたい。

2点目に、コミュニティーのこれからのあり方、関わり方、支援の仕方など
を考える必要があると思ひますが、町長はいかにお考えなのか、お伺ひいた
したい。

そして、これからそういうコミュニティーをつくっていくのであれば、その
地域の新たなリーダーというものをつくっていくかなければならないというこ
とで、そういうリーダーづくりにおいて、各種研修等また助成金などを出すよう
なお考えはあるのか、お伺ひいたします。

議長（大西慶治君） 町長。

町長（尾上武義君） それでは、3問目の地域コミュニティについて、お答えをいたします。

まず1点目の地域コミュニティに対する私の考え方を申し上げます。私は地域コミュニティとは住民の安心・安全な生活と、地域の活性化のために必要な、人と人、人と地域の結びつきであると思っております。

しかし近年は、生活スタイルが変化し、地域や他人との関わりを持たず、地域コミュニティが希薄になってきていると言われておりまして、本町でもその傾向が一定進んでいるのではないかと思います。

また過疎化と高齢化の進展に伴い、地域の体力が低下し、地域行事等のコミュニティ活動が維持できない状況になっているとも言えると思っております。しかし地域づくりを進める上では、地域が主体の活動が重要であり、その基礎としても地域内のコミュニティは必要不可欠でございます。その認識のもと、今回提出しております過疎地域自立促進計画において、地域コミュニティを踏まえて集落対策を進めていくこととしております。また地域コミュニティは日常生活や地域活動のほか、災害が発生した時や、事故等でライフラインが止まった場合など、緊急時にも重要な役割を果たすものでございます。

自然災害など、自分だけでは乗り切れない事態に必ずや遭遇するものですし、高齢化や障害を持った時など、自分の力が衰えた時には、周りの人に頼らなければならない時もあるわけでございます。そうした時のためにも、互いに励まし合い、支え合い、協働して活動する関係づくりが重要であり、そうした信頼関係のもとでコミュニティ関係を築いていくべきものだと考えております。

次に、2点目の地域コミュニティのあり方、関わり方、支援方法についてですが、地域コミュニティにはその地域全体の地縁的なものと、ある特定の目的を持った者同士の関係があろうかと思います。まず地縁的なものとしては、私どもが行政区としてとらえております自治会や区といった単位でありまして、出会い作業始め伝統行事、神社、お寺の行事のほか、時には冠婚葬祭をその地

域の行事として共同で行う、それが本町のような中山間地域においては、主たる地域コミュニティーであり、これは行政が表立って関わっていくものではなく、本来日常生活を通じて理解と信頼を深めながら、地域内でより良い関係で築いていくものであると考えております。

しかし、過疎化と高齢化の進展とともに、自身の日常生活を保つことが困難になりつつある中で、そうした共同作業が十分にできない場合も今後ふえていくのではないかと懸念をいたしております。このため、地域住民による自主的な体制を基本としつつも、状況に応じて集落支援員等の外部人材の登用や、生活支援組織の構築など、行政としても地域振興の観点から支援策の検討が必要な時期になっていると考えておりました、特に急速に過疎化が進みます宮川地域を中心に、地域課題の解決方策の一端として、地域活性化の基礎として、地域の方々とともにコミュニティー体制について、検討を進めてまいりたいと思います。

大台地域においても、全体として過疎化、高齢化する中で、将来の地域活動が損なわれないように、日常生活が地域活動を通じたコミュニティー体制の維持と一層の充実に向けて、出張所を拠点に地域と連携して取り組んでまいりたいと思います。また全体的な地域活動のほか、特定の目的を持ったもの同士のグループや団体の活動もコミュニティー活動でありまして、地域振興にかかる部分については事業費の補助や、講師等を招致するなど、地域振興と地域体力の向上のため自主的な活動を支援してまいりたいと考えております。

3点目の地域のリーダーづくりについてですが、これはコミュニティー体制に限らず各種の地域づくりを進める上で必要であると考えております。私が常々申し上げますように、地域づくりは行政が主導しては本当に地域に根ざした活動にはなりませんし、持続していきません。

このため、それぞれの目標に向かって長期的に地域を引っ張る存在として、リーダーの育成が必要であると考えております。リーダーの育成につきましては、先進事例や各種の研修を紹介するなど、地域に応じて積極的に支援してま

いりたいと考えております。しかし、まずは今抱えております地域課題は何か。その解決策と将来地域をどうしていきたいか。地域の皆さんが自分たちの地域を見つめなおし考えることが第一歩でございますので、昨年の大杉谷地区を皮切りに支所、出張所を拠点として、地域主体の地域づくりに向けて体制づくりから取り組んでいるところでございます。

その中で自然とリーダー的役割を担っていただく人材が現れる期待をしているところでございますが、行政側からのご入札的なことが必要な場合もあると思いますので、その辺は地域の主体性を欠かないように配慮してやっていきたいと考えております。

以上、3点について申し上げましたが、地域のコミュニティーは地域や集落の維持と存続を担うとともに、自然災害等の緊急時にも犠牲者を出さない体制として役立つものと考えておりますので、生活スタイルの変化などにより、住民関係の希薄化が懸念される中でございますが、地域とともにその体制整備に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願いしまして、答弁といたします。

議長（大西慶治君） 小野恵司議員。

10番（小野恵司君） この分野は多分町長が大得意とする大好きな分野ではないかなと思いますので、いろいろ質問したいんですけども、時間の関係もありますので、なるべく私も端的に質問させていただこうかと思うんですけども、地域コミュニティーって最近ですけども、よく耳にするようになりました。地域コミュニティーとは何かと、その説明が抜けていたので、ちょっとするんですけども、地域コミュニティーとは、地域住民が生活している場所、すなわち消費、生産、労働、教育、衛生、医療、遊び、スポーツ、芸能、祭りに関わりながら住民相互の交流が行われる地域社会、あるいはそのような集団を指すと。

またコミュニティーとは、居住地区を同じくし利害をともにする共同社会、町村、都市、地方など、生産、自治、風俗、習慣などで結びつきを持つ共同体、

地域社会というの、そういうのをひっくるめて地域コミュニティというんですけれども、僕も本当に町長と同じ考え方というか、おこがましいかも知れないんですけれども、本当にこの地域コミュニティはこれから必要だと考えます。ぜひ力を入れてもらってます、その一番の例が大杉谷出張所なんかなと思っています。ふだん余り僕は台本とか用意、一般質問でしないんですけれども、今回は範囲も広いですし、どれに絞ってというわけでもないんですけれども、これからのあり方、先ほど町長も言われたように、地域コミュニティは大事、またその社会においても、いろいろな関わり方ということでも、もっともっと力を入れていかないかん。それに対してやっぱりリーダー的なものもかかないかん。しかし、行政が先頭に立っているのは、やっぱりそれか根づかないという部分で考えている。模索的なところもあるかと思うんです。

昔の地域コミュニティと今のコミュニティの違いというのは、先ほども町長言われたように、目的意識を持って地域をこれからどうしていくかということにかかってくると思います。近年、人口の減少や少子高齢化、都市への人口移動など、地域を取り巻く環境がさらに悪化してます。その中で例えば犯罪とか、多発する社会問題とか、例えば環境問題であるかというものに対して、極めて身近な生活圏内における活動や地域の絆というものに関心が集まっております。そうしたその地域の連携、連体が強い地区というのは、本当にそういう世のつながりが強いんですし、犯罪であるとか、環境問題に対する意識であるとかというのが、本当に強いです。そういうのをソーシャルキャピタルというんですけれども、これからそういうことを目指して、社会を考えていかなければいけません。

しかし、これから地域コミュニティをどうするかということになると、今の既存の地域コミュニティとまた目的をもっているテーマコミュニティ、NPOなどテーマを持っているテーマコミュニティと連携を合わせ、行政と住民と相互に連携し、互いに手をとりあって、今まで縦の動きやったものを、もう少し横の動きも入れて、さらなるネットワーク化にしていく必要があると

思うんです。それに対して、町長三つぐらい、ちょっと思っていることがあるんですけども、まずは一つ幅広い世代や多感な感覚を持った人の参加というものを受け入れていくような団体をつくるべきと。

そしてまた、地域の問題と町民みずからが取り組む自立性が必要になると思います。そしてコミュニティー外の人、例えば新しく町内に来られた方などの意見というのを取り入れていく必要などもあると思います。このような多元参加型コミュニティーというものが求められてくると思うんですけども、町長はどうお考えなのか、お伺いしたいと思います。

そしてまた新たな問題として、先ほども言われましたけれども、今まで地域を支えてこられた方を中心として高齢化が進んでます。その生活課題も大きく変化する中で、その現時点のリーダー層の世代が移行期間を迎えているんじゃないかなと、僕思うんです。だから新たな次世代のリーダー層というのをつかっていく必要性があると思うんですけども、こういうものの支援というのは、本当に形としては難しいと思うんですけども、どうですか、新たに具体策というんですか、模索的なことはしていただいておりますか、お伺いしたいと思います。こういう形というのは、これから望まれてくる形であるんでしょうか。町長にお伺いしたいと思います。

議長（大西慶治君） 尾上町長。

町長（尾上武義君） ありがとうございます。まずこの生活圏域と言いますか、そういったようなものも同じにする中で、自分たちの生活に対してどうなのかということだろうと思います。いろいろなところで子どもさん方とか、あるいは中高年の皆さんとか、お年寄りの皆さんとか、いろいろな趣味を通したりとか、生活に関わって必要なグループができて、いろいろな活動が展開をされております。まずまだ大台町はそういった地域コミュニティーというのはしっかりしているんじゃないかなというのを、実感もしております。

ただいろいろなパソコンが発達してきたり、携帯電話ができたとかということによって、いろいろなメディアでの情報も得やすくなってきておるとい

中で、やはり人と人、人と地域との関わりというのは、徐々に薄くなってきておるといふ、車の発達もございますけれども、そういったようなものが外部的な要因によって、地域内のコミュニティーというものが損なわれてきているといふ、そういうことも多々大きく影響しておるんだなといふふうに思っております。

そういう中で、テーマコミュニティーで、私も初めて聞いたような名前なんですけど、そういう横の連携とか、本当にネットになりながら物事を見ていく、あるいは地域を見ていく、人を見ていくといふ、そういうようなことが非常に大事ではあるんですが、実際にやっていただく方が、その人たちがいろいろな課題なり問題意識といふのを、やはり基礎的に持っていただく中で、行動として現れてくるといふことがあるんじゃないかなと思っております。

ですので、地域事情に応じながら、この地域はこうあるべきだなといふようなことで、いろいろな活動、行動といふのが出てくるのが大変望ましいのかなと思っております。その上で、外の人あるいはこちらへみえた方、そういったような人たちとも協働もしながら、また新しい感覚も取り入れながらやっていくといふことが必要であると思えます。そしてまた我々は交流、交流とよく言っております。交流の促進とか言っておりますけれども、この交流も来ていただいてありがとう、さようならと、物を買っていただいてありがとうといふだけでは交流ではなしに、やはり来ていただいた人たちとの対話も交えながら、その人たちの生きざま、我々の生きざまもわかっていただくと。そういうようなことまで交流としては非常に重要な感覚といふんですか、そういったようなことが非常に大事なのかなと、こう思っているところです。

そういうことでコミュニティーといふのは、もっともっと充実していくものなのかと思っております。高齢化も進んでいる中で、リーダー層の移行期間といふようなことで、徐々にそういう状況になってくるわけではありますが、先ほど申し上げましたように、やはり次なる方々がどれだけ危機感なり、あるいは地域に対する課題なり、そういったようなものを持っているかといふふうなこ

とになってこようかと思えます。

そういう意味ではいろいろな情報発信も、こちらもしていけないかというふうなこともあるかと思いますが、そういう意味ではしっかりと行政も町民の皆さんも一緒になりながら地域をつくっていこうやないかというような、おおよそそういう感覚を皆さんお持ちでいらっしゃいますので、大変ありがたいことなんです、さらにそういったようなものを、地域が大事なんやという、そういう意識がもっともっと芽生えていくように、そしてまた子どもさんたちも故郷は大台町なんやというような、そういう思いがしっかりと育っていくような行動なり活動というのが、非常に大事ではないかなと思っているところでございます。よろしく願います。

議長（大西慶治君） 小野恵司議員。

10番（小野恵司君） 答えという答えがなかなかこれらは見つかりにくいものだと思っております。多種多様また地域の風習、風俗なんかもありますので、形としては見えにくいものであります。先ほど町長が言われたテーマコミュニティというのは、例えばその地域をどうしていこうか、例えるならば大杉谷自然学校のようなNPO法人だと思っていただいたらいいかと思えます。そういうのがこれからもっと本当は増えてきて、この大台のあるべき姿、こんなふうにしていこうというのが、横の連携でつながっていけば、すばらしい社会になるんじゃないかと思えます。

そういうふうなことで、極論ではないんですけども、これからの話なんですけれども、もし行政としてもやっぱり放っておくわけにはいきませんので、そういうのと関わっていく必要があると思うので、その地域における地域コミュニティの各種行政課題に対応を、一括できる総合窓口をつくっていく必要があるのではないかということと。また各種、各課担当者による機動的で柔軟な組織の横断チームのような、そのような編成の行えるようなものが必要かと思うんですけど、その2点についてお伺いしたいと思えます。

議長（大西慶治君） 尾上町長。

町長（尾上武義君）　　こういうような地域課題に対応する窓口というふうなことでございますが、これももう既に各支所、出張所でそういう機能が、まだまだ本格的な動きになっておりませんけれども、そういうような対応というようなことは考えているところでございます。また横断的にそしてまた柔軟に対応できるというふうなことでございますが、これは私も常々朝礼等でよく言うんですが、自分の仕事だけしておいて、そういう完結型ではだめですよと、全体的にどういうことが今起きているのかということにも関心を払っていかないと、町民の皆さんから聞かれた時に、あなた役場の人でしょうと言われて、私はこれしか知りませんもんででは通らないということですね。

我々も県の人に話をするのに、県の人をつかまえて農林水産部の人に、環境森林部のことを聞くというふうなケースもありますし、その逆もあるわけですね。私は知りませんのや、部が違いますもんでと、これではあかんということなんです。おおよそここはこういうふうなことみたいですよということだけは、返事としては欲しいなという思いがあるわけです。そういった思いが町民の皆さんにいっぱいあるわけですし、私は福祉の担当ですもんで産業のことわかりませんのやと、それではやっぱりこの人一体何なんやろというふうなことになりますので、一定今起こっていることを、どういう考え方で進んでおるかということは、薄く広くても身につけていく必要があるのは、これ当然でもございますが、しかし自分の仕事だけしておればということになりますので、そこら辺の観念、意識をもう少し変えていく。

したがって、自分だけ仕事終わってさよならやなしに、隣の人が忙しかったら、どうやというふうなこと、一言声をかけるとか。いうならこれも一つのコミュニティですわ。そういうような部分があって、初めて組織力として上がってくるんで、そういう感覚をつけていかんとあかんわけですね。ですので、まだまだそこら辺にはまだいってませんけれども、そういうことを心掛けていくということが非常に大事、心掛けて5年たつのと、全然心掛けずに5年たつのでは、5年たった時点ではえらい違いになっておるということでもあります

ので、そこら辺を職員も一つ一つ認識を深めていけば、すごい集団になってくるんじゃないかなと、こういうふうに期待もして、自分もやらないかんですけども、そんなことを思ったりしております。以上でございます。

議長（大西慶治君） 小野恵司議員。

10番（小野恵司君） 4点目の質問に移ります。ちょっと時間が足りないかも知れないんで、また12月にまた再質問という形で出すかも知れませんが、4点目です。財政力のある大台町についてということで、お伺いします。今、国の財政健全化と世界の不況の流れにより、交付税などもどんどん削減されてきております。町も無駄の削減などに努力をいただいているんですが、しかしその削減にも限界があると思います。

今からは何事にも対応できる町に変わらなければいけないと、時代の流れに対応できる町になっていかなければならないと思うんですが、まずそのためには自力をつけなければならぬと考えます。ということで、2点お伺いするんですけども、1点目は経済や政治などの変化に対応できる町の姿を、町長はどのように考えているのか、お伺いします。

2点目に、財政力をつけ、豊かな町にするために、無駄をなくしていくこと以外に、町長はどのようなビジョン、お考えがあるのか。これからの大台町のビジョンをお示し願いたいと思います。

議長（大西慶治君） 尾上町長。

町長（尾上武義君） それでは、4問目の財政力のある大台町についてお答えをいたします。

まず1点目の経済や政治などの変化に対応できる町の姿をどのように考えているかについてでございますが、昨今、私たちを取り巻く社会・経済環境は、国内のみならず国際的な社会経済システムの変化、情報技術の高度化、急速に進む人口減少と少子高齢化。厳しさを増す財政事情など、大きく変化をしてくれているところであります。町民の皆様にとりまして、もっとも身近な基礎自治体であります町は、町民税や地方交付税などの限られた財源を有効に活用し、

社会の変化や課題に的確に対応するとともに、町民の意思を反映し、地域の実情に応じてさまざまな行政分野で、総合的にみずから政策を企画・立案し、実施をしていかななくてはなりません。

このように将来を見据えた地域経営を担っていくためには、研修等により職員の政策形成能力の向上に努めますとともに、一層の行政のスリム化と効率的な行財政運営を進めることが、町の発展につながっていくものと考えております。

そして、経済や政治の動向に大きく左右されることのない町を目指すためには、何よりも「協働によるまちづくりの推進」が重要であると考えております。住みよい町を維持し、さらによくしていくためには、町民の皆様の知恵と力を活かした「協働によるまちづくり」をさらに進めていく必要があります。すべてを行政に委ねるのではなく、「自分たちが地域を守らねば」、あるいは、「自分たちの手で地域を良くしたい」という思いで、地域の活動を続けていただくことが、高齢化が進むこれからの社会では、ますます大切になっていくはずだと思っております。

今後とも、町民の皆様と対話と重ね、協働によるまちづくりを推進するために、どのような施策が必要であるのか、ともに考え、実行してまいりたいと考えております。

次に、2点目の財政力をつけ豊かな町にするために、無駄をなくしていくこと以外に、どのようなビジョンや考えがあるかについてでございますが、まずは町民の皆様の参画を経て策定をいたしました、総合計画の着実な推進を図ることがもっとも大切であると考えております。

その一つとして、子育て支援の充実による若者の定住促進を図りたいと考えております。自治体によって子育て支援サービスは大きく異なりますことから、子育て世代にとっては、このような制度の違いも住みやすい町選びのポイントになるはずでございます。これまでも、子育て支援を町政の重要課題に位置づけながら、保育園の施設整備とともに、延長保育や0歳児保育などの多様な

保育サービスの充実、子育て支援センターの充実、放課後児童クラブの運営や運営の支援や、子ども医療費の公費負担の対象を中学生まで拡大することなど、多様化するニーズに対応してきたところでございます。

今後も引き続きその整備と充実に努め、親が安心して子供を産み、育てられる町を目指して学校や地域とも連携しながら、当事者の視点に立った子育て支援施策を推進し、町民の皆様はもとより町外の方にも、大台町は子育てに優しい町なんやなというような評価をしていただくことが、町の発展に重要であると考えております。

また保健・福祉・医療の連携強化と、その一体的な推進を図り、いつまでも住み慣れた地域で家族や友人といきいきと暮らせるまちづくりを進めていきたいと考えております。町民の皆様には、自分の健康は自分で守るという、そういう意識を高めていただけるように、世代ごとにさまざまな健診や教室を開催し、ライフステージに応じた疾病の予防、早期発見、早期治療のできる体制づくりを行うなど、保健・福祉・医療が連携したサービスの提供にも努めてまいりたいと思います。

また健康づくりに加えまして、地域で活動する老人クラブやボランティア組織の活動支援し、高齢者の方が元気に、はつらつと、いきがいのある生活を送っていただけるようなまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

産業面におきましても、自然と調和した特色ある農林水産業が持続的に発展し、地域資源を活かした商工業が活発化するためにも、今ある資源を掘り起こしするなど、町民の皆様が主体となった産業振興のまちづくりを進めるとともに、自然環境を活かした交流のまちづくりを進め、町内での消費拡大や活性化につなげたいと考えているところであります。

また道路環境についてでもございますが、近年、高速道路の整備が進みまして、これに加えて料金無料化の社会実験が実施をされておりますことから、通勤圏はさらに拡大をいたしております。町民の皆様のさらなる利便性の向上と定住化促進のためには、高速道路や国道42号へのアクセス道路の整備が重

要であると考えております。さまざまな行政分野におきまして、ビジョンや考えはございますが、自然と人々が幸せに暮らす町を目指し、これからも努力してまいりたいと思いますので、ご理解をお願いし答弁とさせていただきます。よろしく申し上げます。

議長（大西慶治君） 小野恵司議員。

10番（小野恵司君） もう残り時間が少ないので、手短かにいきたいと思うんですけども、僕らの考えと行政の考えとは、確かに違うんです。当たり前のことなんですけれども、僕らはお金がなかったらどうしたらいいかというたら、稼いだらいいと、もともと商売人なんで、そんなふうな頭であるんですね。行政の場合はコストを削減して、例えば人に住んでもらってという安定した基盤をつくっていくということの差になってくると思うんですけども、例えば今回も言うてくれるんかと思ったんですけども、町長はJ・VER制度のことなんか、中日新聞の裏の一面に出ているということで、今日の。さっきも別の人とちょっと会食していたら、その話で話題になったんですけども、大台町すごいなという話にもなったわけで、これからそういった部分なんか新たに活動していく、チャンスがあれば飛びついていくという町長の姿勢には、本当に評価させていただきたいと思うんですけども、もっとそういう部分の視野というんですか、アンテナというのを高くあげて、広く伸ばしていただきたいと思っております。

そのことについて、ジェーバーのこともそうなんですけれども、せっかくの時間なんで言うていただければ、これを見ている方もわからない方もいらっしやると思うんで、一言答弁を求めたいと思います。

議長（大西慶治君） 尾上町長。

町長（尾上武義君） 本日の中日新聞の一面に出るとは思っておりませんが、CO₂の吸収量で基金を増設するということで、掲載をされました。環境省のCO₂の排出量削減取引、いわゆるオフセットクレジットということで、この17日あたりに認証をいただけるのではないかと思っております。

その認証をいただきましたら、いろいろな企業との取引が出てくるのではないかと考えております。

町内34カ所の平成10年以降の間伐履歴等々を証明できる書類を取りそろえて、144ヘクタール分、宮川地域も大台地域も含めてなんですが、その町有林の認定をいただくと、こういうことでございます。年間では大体今のところ2389トンですか、そういったCO2を吸収可能ということで確認をいただけるということでございます。こういったようなものの中で、今、補正予算にも計上させていただいておりますが、いろいろ全日本大学駅伝、あそこのプロバイダーから50トンほど欲しいということで、お話が来ております。ほかにも30数社から問い合わせがございますし、この新聞が出てから、今朝から産業室の電話は鳴りっぱなしと、こういうようなことでもございまして、これは我が町と北海道の下川とか、今日の新聞で足寄が出ておりました。それから高知県梶原と、こういう自治体としては4つになっているようですが、とにかく早い目に声をあげるという、行動を起こすという、そのことが大事でもございます。

私がいくらあげても職員が動かなければ、これ話にならんわけでございますが、職員それに応えてやっていただいた。そしてまた庁内体制も組みながら、いろいろなこういう基金の制度もつくりながらやってきていただいております。そういう意味で本当にありがたいと思っておるんですが、そういうようなこういうJ-VER制度なり、いろいろなものを町にとって可能性のあるものは、やはり追求していくべきだと思っております。

中にはできないものもいろいろあるかと思っておりますけれども、できる限りのことはやっていかなければいかんということを思っております。私自身がまあ言うたら何でもやりたいほうでもございまして、そんなにあまりせんといいうこと職員は言いませんけれども、思っておるのやないかと思うんです。それぐらいして、10個言うて1個、2個でもいいけば、いいかなと思っておりますが、10個やったら10個ともやって欲しいんですけれども、何かの事情でいろい

ろできないケースもあるんですが、そういうふうにいるいろいろなところに取り組んでいきたいという思いはございますし、また町民の皆さんの思いを、いろいろな形ですぐにはできないとか、中期的にあるいは長期的にかかるかもわかりませんが、そういう思いを持ちながら達成をしていきたいということを思っているところでございます。

何にしても財政というふうなことが先走りますから、当然その経済性なり効率性ということも追求もせないかんです。これからも厳しくなってくるので、より自主的な財源という格好も含めながら、やっていかななくてはならんというふうな思いでございます。

今も水道とかあるいは病院とか、大きな事業がありますので、それらのこともきちっと推進せないかんというふうなこともございますが、一方で新たな今もジェーバーもそうですが、交流というふうなことで、趣味やらアウトドアやら、そういったものに訴えるような交流促進もやっていきたいというようなことを、本当に思っているところでございます。後はもう我々の知恵次第で、町民の皆さんにやっていただかなければならん部分もあるわけなんですけど、一体となって進めていく必要があるんだというふうに思います。

そのことが将来的に自分たちの幸せというのが待っておるのやないか。そしてまた大変な思いをしながら、なし遂げた時には達成感なり充実感なりというものが出てきますので、やってよかったなというようなこと、みんなで一緒にやりながら、作り上げていくということが非常に大事だというふうに思っております。よろしく申し上げます。

議長（大西慶治君） 小野恵司議員の一般質問が終了いたしました。

議長（大西慶治君） しばらく休憩いたします。

再開は2時10分とします。

（午後2時00分 休憩）

(午後2時10分 再開)

議長(大西慶治君) 休憩前に引き続き会議を開きます。
